

難波宮跡から 大阪の歴史と文化を 世界へ発信する



開業以来、来館者50万人を半年で突破し、今や関西の新名所となった『NHK大阪放送局』『NHK大阪ホール』『大阪歴史博物館』。今回は都市における環境整備と歴史保存という課題に高度な技術力・ノウハウを収斂し、それぞれの相乗効果によって、街の活性化を実現させた3つの複合施設をレポートします。



● レポーター 吉田 雅代

太陽の光りを浴びて七色に輝く巨大なガラスの半球体のアトリウムが結ぶ、NHK大阪放送会館と大阪歴史博物館。まずは、NHK大阪ホール、NHK大阪放送局を擁するNHK大阪放送会館からご紹介します。

音を大切にした NHK大阪ホール

NHK大阪ホールでは、普段は見ることのできない舞台裏からステージへと案内していただきました。音の反響のことを考えて設計された、緩やかな曲線を描く美しい客席は1,400名を収容し、座席の前後スペースも座る人のことを考えて、たっぷりと取ってあります。さらに、全体を木目を基調とした内装にすることで吸音率を高めるなど、すべてにおいて“音”と“聴くこと”を大切にしたいホールなんだと実感しました。また、最大525インチのハイビジョンや客席格納型の迫りなど最新テクノロジーを駆使して、NHKが制作する公開番組や、多彩なジャンルの音楽コンサート、演劇、寄席、シンポジウムなど多目的に利用できる設備を完備しています。



NHK大阪ホール

テレビ文化を愉しむ NHK大阪新放送局

NHK大阪新放送局の1FにあるBKプラザは、公開生放送やイベントが行われるプラザスタジオと、最新の放送技術を体験できる展示ゾーンで構成されています。なかでも「なりきりスタジオ」では、天気予報などで使われる画面合成上の特殊技術を体験したり、本番さながらのセットでニュースを読むことができます。

「デジタル放送コーナー」ではBSデジタルハイビジョンとデータ放送をリモコンで体験。ほかにも過去のBK制作番組が検索・視聴できる「BKライブラリー」など、プラザ内はテレビのおもしろさと放送の可能性をギュッと凝縮した賑やかな空間になっています。

また9FはBK通りと銘打って、BKの放送の歴史を紹介する「NHKグラフィティ」やテレビスタジオの収録風景が観覧できる「スタジオビジョン」があります。ちなみに取材のこの日は、朝のテレビ小説の収録を幸運にも見る事ができました。

※BKとは大阪放送局のコールサインJOBKの略



なりきりスタジオ



BKライブラリー

実物の古代遺構を有した 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は都市・大阪の歩みを4つの時代をメインテーマに紹介しています。エントランスからエレベーターで一気に10Fに上がると、そこは奈良時代の難波宮の大極殿。宮廷の儀式の様子を紹介したり、当時の衣装を復元しています。9Fは中世近世フロア、8Fでは原寸大に



大阪歴史博物館／心斎橋タイムスリップ

再現した発掘現場で調査の方法や遺構の見方などが学べます。7Fは大正末期から昭和初期の心斎橋筋や道頓堀などの街角をリアルに再現。当時の記録映像とともに、モダン都市・大阪へタイムスリップできます。そしてB1Fでは、実物の古代遺跡・難波宮跡の一部が見学できるようになっています。

「1,350余年の歴史深い難波宮跡に、大阪市とNHKのコラボレーションにより建設されたNHK大阪放送会館と大阪歴史博物館は、ビル全体で地下に眠る難波宮跡の遺構を抱きかかえるように守っています」。関係者の方が言われた通り、都市のなかで歴史保存と文化発信という未だかつてない事業を成功させた同施設は、大阪の街の発展に欠かせない存在であり、社会的貢献度の非常に高い施設であると思いました。



歴史博物館／難波宮大極殿

交通：『NHK大阪放送局』『NHK大阪ホール』『大阪歴史博物館』へは、大阪市営地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目駅」9番出口すぐ。大阪市営バス「馬場町」バス停すぐ。